

複式第1・2学年 国語科学習指導案

I組 1年 男子4名 女子4名

2年 男子3名 女子4名 計15名

指導者 原之園 翔吾

- 1 単元 たのしく よもう (教材「はなのみち」1年光村上)
お話を読んで、かんそうを書こう (教材「スイミー」2年光村上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第1学年)

この期の子どもたちは、これまで「どんなおはなしかな」の学習で、場面の様子について、挿絵を手掛かりにしながら想像を広げて読む能力や、興味をもって読み物を読もうとする態度を身に付けつつある。

そこで、本単元では、感性・情緒の側面から、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えながら読む能力や、挿絵や叙述を基に場面の様子について想像を広げたことを友達と伝え合い、物語を楽しく読もうとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元を設定した。

この学習は、内容や文章のリズムに注意して音読し、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら読む単元「こえにだして、たのしくよもう」の学習へ発展するものである。

(第2学年)

この期の子どもたちは、これまで「すきなところをさがしてよもう」の学習で、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を読む能力や、登場人物の行動や会話を基に動作や役割を考え、互いのよいところを伝え合いながら楽しく音読しようとする態度を身に付けてきている。

そこで、本単元では、感性・情緒の側面から、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら読む能力や、物語を読んだ感想を友達と伝え合おうとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元を設定した。

この学習は、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し感想を書く単元「場面のうつりかわりをとらえ、感想をまとめよう」の学習へ発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「はなのみち」は、主人公のくまさんが袋の中身をなくしてしまうものの、実は袋の中身が花の種であり、春になってくまさんが歩いた後に、花の一本道ができるという絵物語である。また、本教材は、四つのそれぞれの場面に簡単な主述のある文と親しみやすい挿絵が添えられており、文と挿絵を対応させたり、挿絵に出ている動物たちの会話を想像させたりすることで、想像を広げながら読むのに適した教材である。

そこで本単元では、冬と春の場面の様子やくまさんの行動や気持ちなど、物語の内容の大体を捉えさせるために、4枚の挿絵や叙述から登場する動物たちの会話や気持ちを想像させながら読み進めさせる。その際、想像した会話を教材文に書き加えた紙芝居を作り、友達や2年生に発表することを単元の言語活動として設定する。

具体的には、まず、教師が作成した紙芝居を、モデルとして鑑賞させる。また、導入段階において教材文に動物たちの会話を付け加えると物語がより楽しくなることに気付かせ、紙芝居を作るという言語活動への関心・意欲を高めさせる。

次に、教材「はなのみち」の内容の大体を捉えさせるために、冬と春の場面の挿絵を比較さ

教材「スイミー」は、主人公のスイミーが兄弟を失った悲しみを乗り越え、知恵と勇気を発揮してリーダー的な役割を果たしながら仲間と力を合わせて大きな魚を追い出し、平和な暮らしを取り戻す物語である。また、スイミーの行動によって場面が展開されていく構成や、比喩表現、色彩語などの表現の工夫によって物語は生き生きと描かれており、子どもたちが主人公スイミーの行動や気持ちについて想像を広げて読みやすい教材である。

そこで本単元では、スイミーの行動や気持ちについて具体的に想像させるために、海の中で起こった出来事やスイミーの行動や会話、場面の様子に着目させ、各場面について心に残ったことを感想にまとめさせながら読み進めさせる。その際、スイミーの作者レオ＝レオニの作品の中から、読みたい物語を選んで並行読書し、感想を書くことを言語活動として設定する。

具体的には、まず、物語を読んで感想を書くことについての「何を、どのように感想に書けばいいのだろうか。」という課題意識をもたせるために、試し作りとして、教材「スイミー」について心に残ったこととその理由を書いた感想カードを作成させる。そして、見出した課題の解決方法を考えさせ、単元の目標を設定する。

次に、教材「スイミー」を場面ごとに読み、海

せることで、登場する動物たちの様子の違いに気付かせ、叙述と対応させながら、会話や気持ちを想像させる。その際、叙述には現れていない動物たちの会話を書き加えて紙芝居を作る活動を取り入れていくことで、想像を広げながら読むことの楽しさを味わわせる。

さらに、終末では、まとめた紙芝居を友達や2年生に発表する活動を取り入れ、学習に対する有用感や成就感を味わわせるとともに、身に付けた国語の能力の価値を実感させる。

このような活動を通して、子どもたちは場面の様子や登場人物の行動など物語の内容を捉えたり、挿絵や叙述から登場人物の気持ちや会話を想像して友達と伝え合ったりして、学び合うよさや楽しさを味わうことができる。また、言葉同士の関係性を問い直して考えを形成し、自分の思いや考えを深めることができるようになっていく。

(3) 子どもの実態（調査人数1年8名、2年7名、質問法、観察法、主な項目のみ記入、数字は人数）

第1学年	第2学年
【①初発の感想】 最後に花が咲いたことがおもしろい(4) たねがおちたことがおもしろい(3) くまの会話がおもしろい(1)	【①初発の感想】 みんなで協力して大きな魚を追い出したことがすごい(4)／スイミーが一人ぼっちになってかわいそうだった(1)／大きな魚が突っ込んできたところに驚いた・怖かった(1)／スイミーだけが逃げられたことに驚いた(1)
【②内容把握】 ア 袋の中身……花の種(7)／どんぐり(1) イ 花の道ができた理由……くまが種を落としたから(5)／すぐに咲く花だから(1)／分からない(2)	【②内容把握】 スイミーが一人ぼっちになる→元気になる→兄弟たちを見つける→協力して大きな魚を追い出す(5)／スイミーが活躍する話(1)／分からない(1)
【③動物の会話の想像】 花が咲いたことを喜んでいる会話(3)／分からない(5)	【③表現の工夫についての気付き ※複数回答】 ア 比喩表現(2) ・ イ 体言止め(1) ・ ウ 色彩語(2) ・ エ 倒置法(0) ・ オ 分からない(4)
【④言語活動について ※複数回答】 紙芝居を作りたい(7)／劇をしたい(3)／音読をしたい(3)	【④レオ＝レオニ作品の読書経験（「スイミー」以外）】 ある(1) ない(7)

子どもたちの多くは、教材文に興味・関心をもって読むことができている(①)。また、袋の中身が花の種であったことを読み取ることができている子どもが多い(②ア)。しかし、花の道ができた理由を季節の変化と関係付けて捉えられている子どもはいない(②イ)。動物たちの言葉の想像では花の道と関係付けて想像している子どもがいる一方、「分からない」と回答した子どもも少なくない(③)。本単元における言語活動の紙芝居作りについての関心は高い(④)。

(4) 指導上の留意点

ア 袋に穴が開いていたことが、春になって花の一本道をつくり、動物たちにとって嬉しい結果になるという物語の展開のおもしろさに気付かせるために、冬と春の挿絵を比べさせたり、動物になりきって演じる活動を設定したりして、場面の様子や動物たちの気持ちについて想像を広げながら読むことを通して、物語の内容の大体を捉えることができるようにする。

イ 想像を広げて読ませるために、挿絵と叙述とを対応させて登場する動物たちの気持ちや会話について想像したことを書き加えながら

の中で起こった出来事やスイミーの行動や会話、場面の様子に着目させ、スイミーの行動や気持ちについて具体的に想像させる。その際、「～みたいに」「～のような」といった比喩表現や色彩語などの表現の工夫や効果についても捉えさせるようにする。

さらに、終末では、場面ごとの感想をまとめた「感想ポートフォリオ」を活用させながら、レオ＝レオニ作品の感想を書かせ、友達や1年生に発表する活動を取り入れる。そして、試し作りの感想と比較させることで、変容に気付かせ、身に付けた国語の能力の価値を実感させる。

このような活動を通して、子どもたちは物語を読む際に、自分の思いを表現する能力や、友達と学び合うよさや楽しさを味わうことができる。また、言葉同士の関係性を問い直して考えを形成し、自分の思いや考えを深めることができるようになっていく。

子どもたちの多くは、協力して大きな魚を追い出した姿を肯定的に捉え、感想を記している。しかし、物語の最初の部分のみへの感想を記している子どもも少なくない(①)。また、物語の出来事を説明できる子どもが多い。しかし、場面の様子に着目して、スイミーの行動や気持ちを具体的に想像するまでには至っていない。(②)。表現の工夫については、多くの児童が気付いていないことが分かる(③)。レオ＝レオニ作品を読書経験が少ないため、並行読書を行い、興味・関心を高めさせる必要がある(④)。

ア 兄弟たちを失ったスイミーが、元気を取り戻し、知恵と勇気とリーダーシップを発揮しながら、仲間と協力して大きな魚を追い出すという物語のおもしろさに気付かせるために、ペーパースートをを用いた動作化を行わせ、場面の様子やスイミーの気持ちについて、想像を広げながら読むことができるようにする。

イ 想像を広げながら読む能力を高めるために、比喩表現や色彩語などの表現の工夫に着目させ、表現の工夫の効果を子どもたち自身に感じさせながら、スイミーの心情を豊かに想像できるようにし、自分の経験などを理由として、場

紙芝居を作る活動を行わせる。
 ウ 学習したことに対する有用感や成就感を味わわせ、今後の自分の読書生活へとつなげるために、自分が作成した紙芝居を2年生に発表する合同発表会を設定するとともに、この学習で身に付いた国語の能力について振り返らせたり、紙芝居を発表することで得られたよさを交流させたりする。

エ 間接指導時には、ガイド学習を行っていく。そのため、直接指導を行う際には、子どもたちが間接指導でガイドをする際のモデルになるように、課題を受け止める際の「学び方」を意識して指導する。また、授業の終末では、学びの過程を振り返らせ、学習内容と「学び方」の発揮を関係付けて価値付ける。

3 目 標

- | | |
|--|--|
| (1) 紙芝居を作ることに関心をもち、野原や登場する動物たちの様子について想像を広げながら、進んで読もうとすることができる。
(2) 各場面の挿絵を比較しながら、野原や登場する動物の様子など、物語の内容の大体を捉えることができる。
(3) 場面の様子や動物たちの会話について想像を広げながら、紙芝居に書き加えることができる。 | (1) 物語を読んだ感想を書くことに関心をもち、進んでレオ＝レオニの作品を読もうとすることができる。
(2) 比喩表現や色彩語などの表現の工夫に着目し、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像しながら読むことができる。
(3) 登場人物の行動や気持ちを具体的に想像しながら読み、自分の経験と結び付けながら感想を書くことができる。 |
|--|--|

4 指導計画(第1学年8時間、第2学年10時間)

学習課題・主な学習活動(第1学年)	学習課題・主な学習活動(第2学年)
1 学習意欲の喚起 かみしばいを つくって ともだちと よみあおう。 たのしい かみしばいに する ためには、どうすればいいのだろうか。 2 教材文の読み取りと紙芝居作り (1)～(4) はなのみち①～④の読み取り (本時④) 3 紙芝居を完成させる (1) 紙芝居を発表する準備をする。 (2) 同学年の友達と交流する。	1 学習意欲の喚起 レオ＝レオニさんの本をよんで、ともだちと かんそうをつたえあおう。 おはなしの かんそうを かくためには、どうすればいいのだろうか。 2 教材文の読み取りと感想の記述 (1)～(5) スイミー①～⑤の読み取り (本時②) (6) 感想ポートフォリオをまとめ、スイミーの感想をまとめる。 3 レオ＝レオニ作品の感想の記述。 (1) 感想を書く。 (2) 同学年の友達と交流する。
4 合同発表会をして、友達や異学年の友達と感想の交流を行う。	

5 本 時(第1学年：5／8、第2学年：4／10)

(1) 目 標

「あたたかいかがふきはじめました」という叙述や、春が来たことや花の一本道ができたことに喜ぶ動物たちが描かれた挿絵に着目して、動物たちの気持ちや会話を想像して、紙芝居に付け加えることができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちは、挿絵から動物たちの表情や春野の原の様子についての気付きを発表することができる。そこで、冬の場面の挿絵を提示し、違いに気付かせることで、学習課題に焦点化する。また、子どもたちは、挿絵を基にして、会話を想像することはできると考えるが、想像した会話と教材の本文とをつなげて考えることが難しい。そこで、想像した会話と教材の挿絵や本文とのつながりをより深く捉えさせるために、「自分や友達が想像した会話の中で、紙芝居に入りたいと思うものはどの会話ですか。」と問い、その根拠や理由を話し合わせる。

面ごとに「感想ポートフォリオ」を記述させていく。

ウ 学習への有用感や成就感を味わわせて今後の読みにつなげるために、感想を伝え合う合同発表会を設定するとともに、この学習で身に付いた国語の能力について振り返らせたり、発表会で得られたよさを交流させたりする。

「～のような」や「～みたいな」などの比喩表現や色彩語に着目して、様々な生き物が登場する海の中の様子や、だんだん元気を取り戻していくスイミーの気持ちを想像し、感想を書くことができる。

子どもたちは、スイミーが出会った生き物や、スイミーの気持ちに変化していることについての気付きを発表することができる。そこで、「スイミーが、だんだん元気を取り戻した秘密は何だろうか。」と問い、本時の学習課題に焦点化する。また、子どもたちは、比喩表現や色彩語に着目し、スイミーの心情と関係付けて考えることが難しい。そこで、スイミーがだんだん元気を取り戻した理由をより深く捉えさせるために、「ただの『くらげ』や『いそぎんちゃく』を見ただけで、元気になるのかな。」と問い、比喩表現や色彩語に着目させ、話し合わせる。

(3) 実 際 ○直接指導時の教師の具体的な働きかけ ●間接指導に入る直前の教師の具体的な働きかけ

教師の具体的な働きかけ	主な学習活動（第1学年）	位置	主な学習活動（第2学年）	教師の具体的な働きかけ
○ ガイドのモデルを示すために、本文を読むよう指示し、気付いたことを発表させる。また、野原の様子や動物たちの表情の違いに気付かせるために、冬の場面の挿絵を提示し、「挿絵から、気付いたことはないかな。」と問い、本時の学習課題を設定する。 ● 課題解決に向けて、見通しをもたせるために、なりた動物を決めて、大きな吹出しカードに会話を想像して書くことを確認する。 ○ 会話を想像して書かせるために、動作化を取り入れ、動物になりきって会話を考えさせる。 ○ 互いの考えを理解しながら話し合うことができるようにするために、同時間接指導の互いの考えを交流する活動において、「どうして〇〇さんは、『春になって気持ちがいいな』という会話を考えたのかな。」と聞き手の子どもに問い、根拠や理由を説明させる。 ● 想像した会話と教材の挿絵や本文とのつながりをより深く捉えさせるために、「自分や友達が想像した会話の中で、紙芝居に入れたと思うものはどの会話ですか。」と問い、その根拠や理由を話し合わせる。 ○ 学び合いのよさを実感させるために、会話を想像し友達と交流する活動を通して、会話の理由に気付いたことや、春の野原の様子をより深く読み取れたことを振り返らせ、次時の学習に向けての意欲付けを行う。また、「話し方」や「聞き方」などの「学び方」について価値付ける。	1 本時の学習課題を設定する。 どうぶつたちは、どんなおはなしをしているのだろうか。 2 学習の見通しをもつ。 ・ なりたい動物を決める。 ・ 想像した会話を大きな吹出しカードに書く。 3 自分がなりた動物の会話を想像して書く。 (1) なりたい動物を決めて会話を想像し話し合う。 ひとりで考える ひ 私は、うさぎさんになって会話を考えてみよう。「お花がきれい。みんなでアクセサリを作ろうよ」って、話していると思うな。【教材（挿絵）】 友達の考えと比べる と ぼくは、たぬきさんになるぞ。「ねえ、みんな一緒に踊ろうよ。」って、言ってると思うな。【教材】 と とりさんになってみたよ。「春が来てうれしい。」という会話を考えたよ。【教材】 と ぼくは、りすさんになってみました。「くまさんとぼくの家が、花の道でつながったね。」と、言ってると思いました。【既習】 (2) 書いた会話を友達と交流して伝え合う。 どうして、〇〇さんは、「□□。」という会話を考えたのかな。 みんなの考えと比べる み 「あたたかいからがけがふきはじめました。」という文から、「春が来てうれしい。」って考えたからだと思います。 み 自分や友達が想像した会話の中で、紙芝居に入れたと思うものはどの会話ですか。 み 私は、〇〇くんの「みんな踊ろう。」がいいなと思いました。なぜかという、教科書の絵とあっていると思うからです。 み ぼくは、〇〇さんの「春が来てうれしい。」って会話を紙芝居に入れたなと思いました。「あたたかいからがけ」とつながるからです。 4 本時のまとめをする。 【共通点】 どうぶつたちは、はるになったことや、はなのみちについておはなしをしている。 5 本時の感想を交流する。 〇〇さんの「あたたかいからがけ」から考えた会話を聞いて、野原に春が来たんだということに気付きました。 〇〇さんが体を向けて話を聞いてくれたのでうれしかったです。	1 5 3 18 5 5 3 3 2	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 教材文を音読し、気付いたことを話し合う。 (2) 本時の学習課題を設定する。 なぜ、スイミーはだんだん元気をとりもどしたのだろうか。 2 学習の見通しをもつ。 ・ 考えの根拠となる言葉にサイドラインを引く。 ・ 考えと理由をノートとボードに書く。 3 スイミーが元気を取り戻した理由について話し合う。 ひとりで考える ひ 海の中で「くらげ」に出会ったから元気を取り戻したんだと思うな。【教材】 友達の考えと比べる と ぼくは、「おもしろい」生き物たちにたくさんで出会って、楽しくなってきたから元気がになったと思うよ。 と 私の考えとは少し違うけど、納得できるよ。【他者】 み 海の中で、いろいろなおもしろいものに出会って、悲しみが少しずつ減っていったんじゃないかな。【既習】 み 「だんだん」とって書いてあるから、いろいろな生き物に出会って少しずつ元気を取り戻していったんだよ。【教材】 【共通点】 スイミーは、海の中でいろいろな生き物に出会って、だんだん元気をとりもどした。 みんなの考えと比べる み ただの「くらげ」や「いそぎんちゃく」を見ただけで、元気になるのかな。 み 「くらげ」じゃなくて、「にじ色のゼリーのようなくらげ」って書いてあるよね。 み 私はまだ見たことがないけど、「にじ色のゼリーのようなくらげ」って、とてもきれいだと思う。 み 本当だ。他にも、「～のような」や「～みたいな」という言葉がたくさん出てきているね。 み スイミーは普通とは違うとてもきれいな生き物やおもしろい生き物に出会ったから、元気を取り戻したんだね。 4 本時のまとめを行う。 スイミーは、本とうにきれいな生きものやおもしろい生きものに会ったから、だんだんと元気をとりもどした。 5 第三場面で心に残ったことを「感想ポートフォリオ」に書く。 6 本時の感想を交流する。	● 課題を焦点化させるために、スイミーの気持ちの変化に着目して音読させ、スイミーの行動や気持ちについての感想や疑問に思ったことを話し合わせる。 ○ 本時の学習課題を設定するために「だんだん元気をとりもどした」という子どもたちの気付きを基に、前の場面での海の中の様子やスイミーの気持ちを比較させ、「スイミーがだんだん元気を取り戻した秘密は何だろうか。」と問う。 ○ 互いの考えを理解しながら話し合うことができるようにするために、同時間接指導の互いの考えを交流する活動において「どうして〇〇さんは『くらげに出会ったから。』と、考えたのかな。」と聞き手の子どもに問い、根拠や理由を説明させる。 ● スイミーが元気を取り戻した理由をより深く捉えさせるために、「ただの『くらげ』や『いそぎんちゃく』を見ただけで、元気になるのかな。」と問い、「にじ色のゼリーのような」や「もも色のやしの木みたいな」などの比喩表現や色彩語に着目させ、海の中の様子や、スイミーの気持ちについて話し合わせる。その際には、スイミーの泳ぎ方の変化について、具体的に想像させる。 ○ 単元の言語活動である感想の材料とするために「この場面で心に残ったことは何ですか。」と問い、心に残ったこととその理由を、「感想ポートフォリオ」にまとめさせ、交流させる。